

5 学年キャンプ ~ 7月13日(火)・14日(水)大池自然の家 ~

雨模様でしたが、全員が力を合わせ、登山以外すべてを行うことができました。みんなの力で「思い出に残る楽しいキャンプ」をつくり上げました。

自分たちで考え、計画を立て、自分たちの力ですすめました。

「班長係」「食事係」「宿舎・保健係」「レクリエーション係」が準備をすすめてきました。そのため、手際よく、早目の行動をすることができました。余裕がうまれると、後片付けがしっかりとできる、次の行動を考えることができる等、雨の中でも無理のない活動につながりました。

きまわりを守り、友達と協力して生活をしました。



外は大雨。室内で燃えた綱引き



力を合わせて夕食作り

1日目は大雨でしたが、子どもたちの笑顔が随所に見られました。自分の責任を果たし、友達や先生にも支えられ、レクや夕食作りがすすんだからです。一人ひとりががんばることで、みんなと一緒にの楽しさが味わえました。

高原の豊かな自然に親しみました。

2日目は、朝、雨が降りましたが、予定通りの活動ができました。オリエンテーリングでは、雨にぬれた美しい森ときれいな大池の周りを班毎に巡りました。さらには、三峰山の登山道の途中まで散策することもできました。学校



45分間大池を巡るオリエンテーリング

では味わえない感動でした。

最後まで自分の力を出し、やりぬきました。

1日目、雨の切れ間を見計らい、急きょキャンプファイヤーを設置して、点火しました。放送設備も用意できない中、みんなで声を上げました。すべてが一生懸命のキャンプでした。



夜空を焦がす
キャンプ
ファイヤー

これからは、最高学年に向け、さらに「指示を待たず、自分で考えて」「時間を意識し、5分前には」行動するを大切に学校生活を送ってください。

人とのかかわりがうまくいかない子には、「ありがとう」「すみません」の2つの言葉を使えるようになると、ずいぶん生活しやすくなります。人とのかかわりを円滑にしていく言葉を上手につかえるように、家庭でたくさんつかってみましょう。



「ありがとう」「すみません」は魔法の言葉

言葉は、自分の気持ちを相手に伝える大切な道具です。使い方によって、人間関係は良好になったり、崩れてしまったりします。友達などとのトラブルが多い子どもは、上手に自分の感情を伝えられなかったり、相手の気持ちを察することができなったりすることが少なくありません。

そんな子どもには、まず「ありがとう」「すみません」をたくさんつかえるように、家庭でも心がけてみてください。



「ありがとう」の語源

「ありがとう」は、「有難し」で、“あることがかたい”ということだそうです。つまり、めったにない、めずらしくて貴重ということです。そんなよい思いを自分が受けていることから、感謝するときに「ありがとう」と言うようになったそうです。

「すみません」の語源

「すみません」は、相手への謝罪のときに使います。これは、相手に失礼なことをしてしまい、このままでは自分の心が「澄みきらない」ことから、「すみません」と言うようになったそうです。

「ありがとう」「すみません」は、心の内を表す言葉です。この言葉によって、言われた方は気持ちよくなります。あなたが「ありがとう」「すみません」と言えて、本当にうれしかったよと、褒めてあげましょう。相手が気持ちよくなると、言った自分も気持ちがよくなることを経験させてあげるのです。

「おはよう」「しつれいします(しました)」も、お互いの心を気持ちよくする言葉です。これらの言葉の頭文字(おはよう・ありがとう・しつれいします・すみません)をとって並べると「オアシス」(砂漠の休息地)になります。

まず、家庭で「オアシス」の言葉とそれらに込められた心を大切にしていくことで、安らぎの場をつくり出していきたいものです。

